

平成 30 年度 長尾谷高等学校 学校評価について
< 目 次 >

- I 平成 30 年度 長尾谷高等学校 学校評価
- II 平成 30 年度 長尾谷高等学校評価アンケート 評価結果報告書
- III 学校関係者評価 概要
- IV 「平成 31 年度（令和元年度）長尾谷高等学校学校関係者評価委員会」の
意見

I 平成 30 年度 長尾谷高等学校 学校評価

1 めざす学校像

- (1) 一人ひとりを大切にし、自立した学びを続けられる人材を育成する
- (2) 一人ひとりの特性に配慮し、『学びの個別化』に対応した教育
- (3) A I 時代に対応

2 中期的目標 (Plan)

1 学校運営

- (1) 教育課程
- (2) 年間を通じた教育計画の作成
- (3) 教職員間の情報共有と連携強化
- (4) 開かれた学校づくり・情報公開
- (5) 危機管理

2 教育内容・教育の課題

- (1) 情報教育
- (2) 教育体制及び重点目標
- (3) 特別活動・部活動の充実

3 生徒指導・支援

- (1) 生徒支援 (学習指導・進路指導)
- (2) 生徒指導・校内巡回の充実

4 教職員研修・資質向上

- (1) 教職員研修
- (2) O J T の効果的活用

【自己評価アンケート結果と分析・学校評価委員会からの意見】(Do、Check)

自己評価アンケートの結果と分析[平成 31 年 3 月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○教職員</p> <p>・実施日 平成 30 年 12 月 26 日 (水)～平成 31 年 1 月 11 日 (金)</p> <p>・対象者 常勤教職員 79 名 (回答率 100%)</p> <p>【分析】</p> <p>肯定的評価 (A B) が、昨年度と比べ、全 35 項目のうち 17 項目で減少し、反省すべき結果となった。とくに、5. で挙げた 3.0 ポイント以上減少した 7 項目については今後改善に取り組んでいかななくてはならない。</p> <p>しかしながら、従来より他の通信制高校に比べ本校の強みである、教科指導や生徒指導、学校行事や部活動に関する項目は高い評価が現れており、これらは今後も維持していきたい。</p> <p>様々なノウハウを共有し、個々の教職員のスキルアップとともに、学校全体で組織的に問題点の改善に努めていかななくてはならない。</p>	<p><学校関係者評価委員会></p> <p>1 実施日 令和元年 6 月 7 日 (木)</p> <p>2 学校関係者評価委員会委員から、「自己評価アンケート」の結果につき多様な観点から分析・評価をいただいた。「総括」評価は次の通りであった。</p> <p>1 多様な生徒に対し、国際理解教育・人権教育を推進するとともに、スポーツ・芸術活動も積極的に取り入れ、学校行事が盛んである。これからも生徒・保護者のニーズをしっかりと掴み、教育内容のさらなる充実を期待する。</p> <p>2 生徒指導関係の肯定的評価は高い水準であり、支援に関する項目の評価をさらに上げる取り組みにより、多様な生徒が安心して学習を深めることのできる環境が確立されている。</p> <p>3 教員の資質向上に向けて、効果的な校内研修がなされている。分校同士の連携と情報共有を大切に、人権教育はカウンセリングマインドに関する研修など、継続して取り組んでいただきたい。</p> <p>4 学校評価アンケートの分析も客観的になされており、次年度の学校運営にしっかり繁栄することのできる総括だと思う。</p> <p>※ 各項目の詳細については、別添資料「IV『平成 31 年度 (令和元年) 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会』の意見」を参照。</p>

3 平成30年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学校運営	(1) 教育課程 教育課程内容の検証	ア学習指導要領の対応状況	学習指導要領と教育課程・授業内容との一致	教育課程は学習指導要領の趣旨内容に沿っている
	(2) 教育計画 教育計画の充実	教育計画の作成と内容の精選	各教科とも教育計画内容の精選を実施	前期・後期の年間を通じた教育計画を全教科で精選し充実させている
	(3) 情報共有と連携 ア 教員間の連携	教員間教科間の相互理解に基づく教育活動	相互理解と信頼関係の構築	定期的な会議開催と随時の相互連絡で情報共有し信頼関係を築いている
	イ 教員と事務職員間の連携	両者の間での情報共有の機会を増加させる。	相互理解と信頼関係の構築	教員と事務職員間の情報交換の機会を増加し相互理解連携を図っている
	(4) 情報公開 ア 学校ホームページの充実	学校ホームページの情報内容の精選と充実	公開情報を日常的にチェックし更新する	精選した内容を、適宜、随時、アップしており更新も適宜適切である
	イ 学校説明会の充実	説明内容の充実と開催の回数を最低10%増加する。	説明内容を精選し必要な情報を常に検証する	学校見学・説明会の回数を増加するために、協力体制を築いている
	(5) 危機管理 危機管理マニュアル	役割の明確化と諸機関との連携	訓練内容の精選と充実	役割分担が明確であり、関係諸機関との連携が十分である
	(1) 情報教育 情報能力育成、情報モラル指導	IT活用能力育成と情報発信モラルの教育に取り組む	授業を含め様々な機会をとらえて指導する	情報リテラシー及びモラルについて資質を高め適切な活用能力を磨く
	(2) 教育体制及び重点目標 ア 人間性を培う教育の充実	知性と感性の調和のとれた人間性を育む教育の実践	面接指導の充実が図られている	生徒と直接向き合う指導を重視し、対面指導（面接指導）を通じて、生徒の成長に繋がっている
	イ 国際教育の充実	国際的視野に立った判断力・言動力の醸成	他者の人権尊重と価値観の多様性への理解	国際的視野に立ち、自他を敬愛する精神や寛容の精神を育成している
(3) 特別活動・部活動 特別活動・部活動の充実	特別活動の実親内容と部活動指導の充実・活性化	特別活動の参加者数を10%増加し、部活動実績を2~3部向上させる	特別活度は多種多様に開催実施しており、部活動においても複数の部において全国大会出場の実績が残せた	
3 生徒指導・支援	(1) 生徒支援（学習指導・進路指導） ア 学習指導・進路指導の充実	生徒の実態に即した学習指導と進路指導の促進	生徒の実態を表面に現れた事象だけでなくその背景まで考慮しているか	個別相談等で、一人ひとりの実態を見極める努力を行っており、カウンセリングマインドを意識した指導の実践に努めている
	(2) 生徒指導・校内巡回の実施 生徒指導体制の確立	指導方針の共通理解と丁寧な生徒観察の実施	共通認識に基づいた組織的対応と生徒への積極的な声掛けの実践で問題行動数を10%減少させる。	教職員間で共通認識は形成されており、生徒とのより良いコミュニケーションが図られている。問題行動数は減少傾向にある。

4 教職員研修・資質向上	(1) 教職員研修・資質向上			
	研修体制の充実	教職員研修の実施及び研修成果の共有	人権課題や指導方法を教職員相互間で共有しているか	人権課題や指導方法について教職員が研究する体制の構築はまだまだ不十分であるが徐々に充実しつつある。
	(2) OJT			
	OJTの効果的な活用	教職員間での業務遂行の際の良好な連携・協力体制の構築	業務遂行について今教職員相互に関心を持ち、経験者による適宜・適切な助言ができていますか	管理職、及び経験豊富な者からの適宜・適切な諺号・助言の実践が行われており、教職員全体の資質向上に貢献している

4 【自己評価アンケートを踏まえた平成31年度（令和元年度）の改善点】（Action）

<p>(1) ホームページの内容の充実 広報活動の一層の充実を図る一貫として、本校の教育内容の特長や教育課程の特長を分かりやすく整理するとともに、生徒への情報発信・連絡手段としての機能を充実させる。</p> <p>(2) 研修成果の共有 教職員のこれまで以上の資質向上に向け、教職員研修を充実させるとともに研修成果の共有の方策を検討する。</p> <p>(3) 「学校見学・説明会」の充実 日常的な学校訪問をより一層充実させ、その際の説明内容を情報交換しながら工夫する。そして、学校見学時の説明内容を検討して生徒、保護者に興味を持ってもらえる広報活動の確立に努める。</p>
--

Ⅱ

平成30年度

長尾谷高等学校評価アンケート

評価結果報告書

平成31年2月14日（木）

学校法人 東洋学園

長尾谷高等学校

1 調査の概要

(1) 調査の名称

平成30年度 長尾谷高等学校 自己評価アンケート

(2) 調査方法

質問紙法・記名式

(3) 調査期間

平成30年12月27日(木)～平成31年1月15日(火)

(4) 調査対象校および回答者数

枚方校24名、京都校12名、梅田校15名、奈良校7名、なんば校21名 合計79名

(5) 調査項目

【分類1】学校運営

- | | |
|----------------|--------------------------------------|
| (1)「教育課程」 | ①学習指導要領の対応状況 ②教育計画について |
| (2)「教職員連携」 | ①教員・教科間連携状況
②教員と事務職員の連携状況 ③会議の有効性 |
| (3)「情報公開」 | ①ホームページの活用状況 ②学校見学、説明会実施状況 |
| (4)「危機管理」 | ①役割分担について ②危機管理対応状況 |
| (5)「開かれた学校づくり」 | ①地域交流について |

【分類2】教育内容

- | | |
|----------------|--|
| (1)「情報教育」 | ①情報能力育成 ②情報モラル指導 |
| (2)「人権教育・国際教育」 | ①研究体制 ②教育体制及び重点目標 |
| (3)「環境教育」 | ①環境問題意識向上 ②実践的態度の育成 |
| (4)「その他」 | ①読書推進 ②部活動 ③ボランティア
④学校行事 ⑤スポーツ・芸術文化 |

【分類3】生徒指導・支援

- | | |
|-----------|--------------------------------|
| (1)「生徒指導」 | ①指導方針の一貫性 ②生徒指導について ③家庭との連携状況 |
| (2)「生徒支援」 | ①学習指導について ②カウンセリング体制 ③進路指導について |

【分類4】教員研修・資質向上

- | | |
|-----------|--|
| (1)「教員研修」 | ①教員の資質向上について ②校内研修 ③初任者のサポート状況
④校外学習 ⑤研修成果の共有状況 |
|-----------|--|

2 総括

平成30年度「学校評価」まとめ

3 資料目次

- (1) 自己評価(学校運営・教育内容・教育の課題)アンケート用紙
- (2) 自己評価(生徒指導・支援・教員研修・資質向上)アンケート用紙
- (3) 学校評価アンケート平成29年度集計(実数)
- (4) 学校評価アンケート平成29年度集計(割合)
- (5) 「平成30年度学校評価集計 年度別比較表」(30・29・28年度)

分類 1 「学校運営」

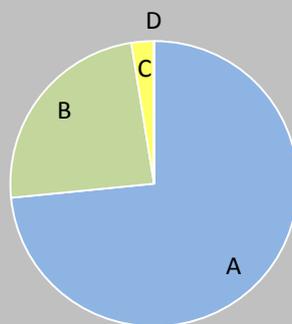
(1)「教育課程」

① 学習指導要領の対応状況

問:「教育課程は学習指導要領に沿っている」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	58	73.4%
B ややあてはまる	19	24.1%
C あまりあてはまらない	2	2.5%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

肯定的評価A・Bを合わせると97.5%で昨年度97.3% 一昨年度98.7%。昨年度に続き肯定的評価は高い水準を維持できている。しかしながら、C評価が2.5%あるので次年度はより一層、学習指導要領を遵守した教育活動を行っていく必要がある。

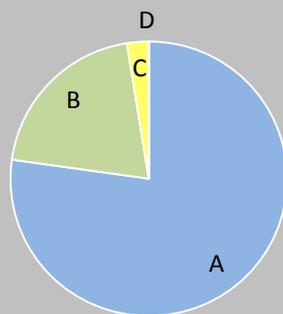


② 教育計画について

問:「年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	61	77.2%
B ややあてはまる	16	20.3%
C あまりあてはまらない	2	2.5%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

肯定的評価A・B=97.5% 昨年度98.7%。昨年度より肯定的評価は僅かに減少しているが、高い水準を維持できている。本校では従来よりレポート作成、スクーリング指導に教員全員が関わり、教科指導に責任を負う体制が確立している。教科会では生徒の実態に応じた教科指導について活発に議論され、綿密な教育計画のもとレポート問題が作成されている。今後も充実した内容の教科指導を心がけたい。



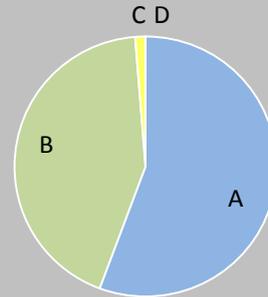
(2)「教職員連携」

① 教員・教科間連携状況

問：「教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	44	55.7%
B ややあてはまる	34	43.0%
C あまりあてはまらない	1	1.3%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

肯定的評価A・B=98.7% 昨年度97.3%。今年度もよい評価ではあり、昨年に比べ肯定的評価が1.4ポイント微増している。分校が5校あるため、本来、分校間の相互理解・信頼関係構築は難しいところではあるが、メールや電話で日々連絡を取り合い、また、定期的に集まって会議が行われていることもあり、5校が一体となって学校運営がなされている。次年度も今まで以上に情報共有がなされるよう努めていきたい。

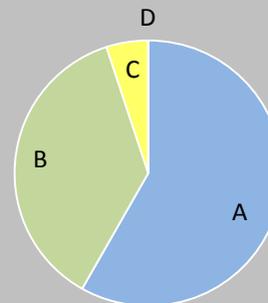


② 教員と事務職員の連携状況

問：「教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携は取れている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	46	58.2%
B ややあてはまる	29	36.7%
C あまりあてはまらない	4	5.1%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

肯定的評価A・B=94.9% 昨年度94.6%。近年若干の減少傾向にあるが、日々教員と事務職員の間では十分意思疎通がなされており、生徒の家庭状況に関する情報など、教科指導の中ではなかなか得られない情報を事務職員から得たり、両者の連携は生徒理解の一助となっている。円滑な学校運営のために両者の連携は今後も必要不可欠であり、肯定的評価がより向上するよう、今後も努めなければならない。

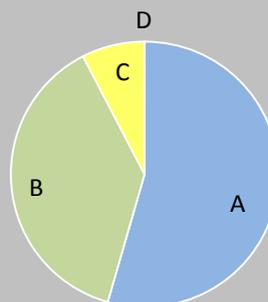


③ 会議の有効性

問：「教職員会議を始め各種会議が有効かつ効率的に機能している。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	43	54.4%
B ややあてはまる	30	38.0%
C あまりあてはまらない	6	7.6%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

肯定的評価A・B=92.4% 昨年度92.0%。昨年から、微増。一昨年度より3.6ポイントの減少である。全職員が一堂に介するという機会は年数回、毎月の運営委員会、職員会議は代表が出席し、結果を各校で伝達報告している。また、教育内容の充実を図るため、各種委員会も定期的に開催されている。会議の頻度や開催場所などについて、より効率化を図るよう検討の必要がある。

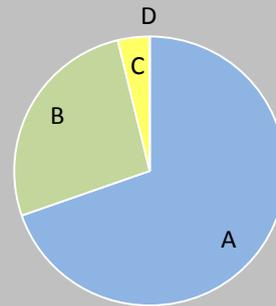


(3)「情報公開」

① ホームページの活用状況

問:「学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	55	69.6%
B ややあてはまる	21	26.6%
C あまりあてはまらない	3	3.8%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

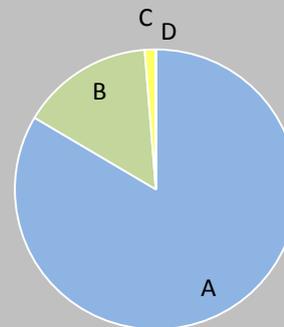


肯定的評価A・B=96.2% 昨年度は96.0%。今年度は微増。一昨年より3.8ポイントの減少である。従来より本校の取り組みや進路の実績など、可能な限りの情報公開をおこなっている。とくに今年度はホームページの大幅な変更にも取り組んでおり、各分校のクラスやコースについて特設ページを設けるだけでなく、動画を用いた学校紹介も行って、今後益々の改善が見込まれる。

② 学校見学・説明会実施状況

問:「学校見学、説明会などを積極的にを行い、全員で取り組んでいる。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	66	83.5%
B ややあてはまる	12	15.2%
C あまりあてはまらない	1	1.3%
D 全くあてはまらない	0	0.0%



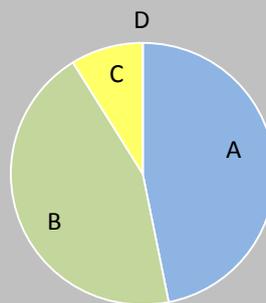
肯定的評価A・B=98.7% 昨年度98.6%。今年度も高い評価を維持できている。定期的に学校説明会を各分校で開催しており、学校見学には随時個別に対応している。今年度は日曜日にも学校説明会を初めて開催した。特にユービック情報専門学校で行った、大阪3校合同説明会は大変好評であった。また、説明会後の個別相談には全教員で取り組んでおり、丁寧な対応を行うことが出来ている。

(4)「危機管理」

① 役割分担について

問:「事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	37	46.8%
B ややあてはまる	35	44.3%
C あまりあてはまらない	7	8.9%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

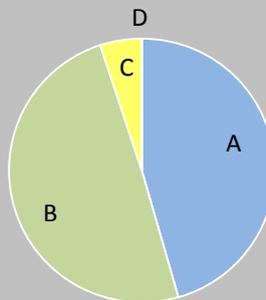


肯定的評価A・B=91.1% 昨年度93.4%。昨年よりは2.3ポイント減少。分校ごとに学校周辺の環境は異なり、危機管理の対応も少し違いがある。田園、旧住宅地にある枚方校、市街地、商業地にある京都校・なんば校、市街地の外れ、オフィス・住宅地にある梅田校・奈良校では地域の様子も違い、起こりうる事故や事件、災害も異なると考えられる。地域の状況に合わせて対応策がそれぞれ相応の対応が必要と考えられる。

② 危機管理対応状況

問:「危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	36	45.6%
B ややあてはまる	39	49.4%
C あまりあてはまらない	4	5.1%
D 全くあてはまらない	0	0.0%



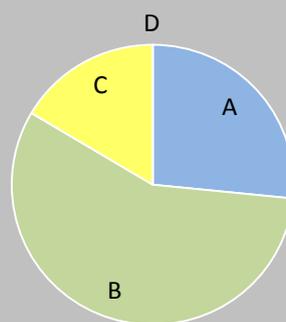
肯定的評価A・B=95.0% 昨年度92.0%。今年度は3.0ポイントの増加である。5つの各分校は、規模、生徒数、職員数、置かれている環境や曜日ごとの生徒出席状況も違う。よって危機対応も各校ごとによって変わるが、毎年避難訓練も実施し、教職員全員で危機管理意識を共有できるように図られている。生徒も交えて救命講習を実施している校もあり、生徒の生命を守るための教員のスキルアップも図られている。

(5)「開かれた学校づくり」

③ 地域交流について

問:「地域や地域住民との交流ができている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	21	26.6%
B ややあてはまる	45	57.0%
C あまりあてはまらない	13	16.5%
D 全くあてはまらない	0	0.0%



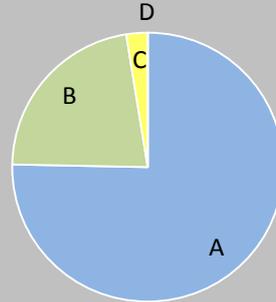
肯定的評価A・B=83.6% 昨年度84.0%。昨年度に比べ0.4ポイント減少である。本校では通信制では珍しく文化祭を毎年開催しており、近隣の住民にも多数参加していただき好評を得ている。他にも枚方校では近隣の神社に絵馬を奉納、京都校では祇園祭で山鉦巡行に生徒も参加、奈良校では、夏祭りに協賛するなど、学校行事に地域交流を取り入れている。次年度は肯定的評価が向上するよう、より一層地域交流に努めていきたい。

分類1 「学校運営」 集計結果

(1)「教育課程」の 集計結果

項目	実数	割合
A よくあてはまる	119	75.3%
B ややあてはまる	35	22.2%
C あまりあてはまらない	4	2.5%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

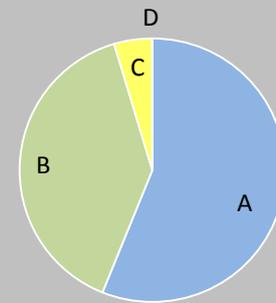
肯定的評価A・B=97.5% 昨年度98.0%。昨年度に比べ0.5ポイント微減であるが、高い水準を維持できている。次年度はこれまで以上に学習指導要領遵守の意識を全教員で共有し、各教科で生徒の実態に応じた綿密な教育計画を立てられるよう、努めていきたい。



(2)「教職員連携」の 集計結果

項目	実数	割合
A よくあてはまる	133	56.1%
B ややあてはまる	93	39.2%
C あまりあてはまらない	11	4.6%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

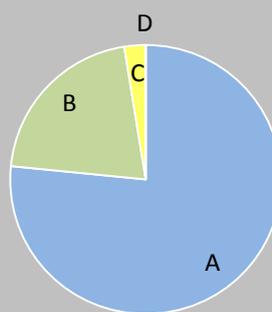
肯定的評価A・B=95.3% 昨年度94.7%。昨年度から0.6ポイントの増加である。現状はまだ高い水準を維持できているが、改善策を模索していく必要がある。両者に隔てるものはなく、意思の疎通もよい、人間関係の円滑化や情報の共有化が図られている。生徒対応も協力しスムーズに行われている。ただ、C=4.6%がある。今後もなお一層の連携に邁進したい。



(3)「情報公開」の 集計結果

項目	実数	割合
A よくあてはまる	121	76.6%
B ややあてはまる	33	20.9%
C あまりあてはまらない	4	2.5%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

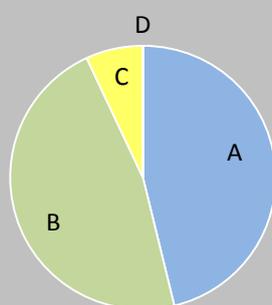
肯定的評価A・B=97.5% 昨年度は97.3%。昨年度より0.2ポイントの微増である。高い水準を維持できている。今年度はホームページの大幅な改変や、日曜日の学校説明会の開催など、入学希望者に対してより丁寧な情報公開や相談対応を行った。次年度は肯定的評価が向上するよう、さらに方策を模索していきたい。



(4)「危機管理」の 集計結果

項目	実数	割合
A よくあてはまる	73	46.2%
B ややあてはまる	74	46.8%
C あまりあてはまらない	11	7.0%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

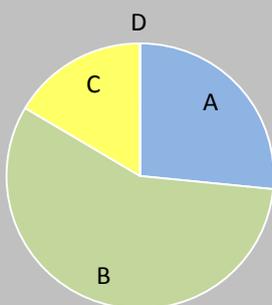
肯定的評価A・B=93.0% 昨年度92.7%。一昨年度は89.3%であり、肯定的評価は近年増加傾向にある。避難訓練に加え、救命講習などの諸行事の中で少しずつ教職員の中で危機管理意識が根付いてきているのではないと思われる。生徒の生命に関わる重要な項目であるため、今後もこの傾向を保っていきたい。



(5)「開かれた学校づくり」の 集計結果

項目	実数	割合
A よくあてはまる	21	26.6%
B ややあてはまる	45	57.0%
C あまりあてはまらない	13	16.5%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

肯定的評価A・B=83.6% 昨年度84.0%。昨年度に比べ0.4ポイントの微減である。5つの分校ごとに周辺の環境が違い、地域との関わり方に違いがある。枚方校の文化祭や、神社へ絵馬の奉納、京都校の祇園祭で毎年山鉦巡行などの行事に生徒も参加しているためA評価の割合が高く、一方で市街地に校舎のある分校ではA評価の割合が低い傾向にある。今後はそういった分校でも何か地域との関わりがもてる行事ができないか模索していきたい。



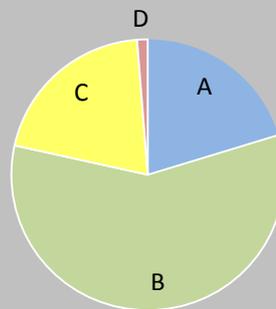
分類 2 「教育内容・教育の課題」

(1)「情報教育」

① 情報能力育成

問:「総合的にIT活用能力を磨き、様々な問題に対するアプローチの幅を広げる指導ができています。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	16	20.3%
B ややあてはまる	46	58.2%
C あまりあてはまらない	16	20.3%
D 全くあてはまらない	1	1.3%

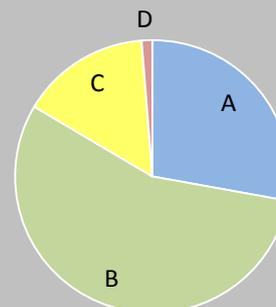


肯定的評価A・B=78.5% 昨年度82.6%。昨年度に比べ4.1ポイント減少である。本校では「コンピュータグラフィックス」や「ネット利用課題研究」「ロボチャート」等の総合学習科目を設置し、従来よりIT活用能力の育成に積極的に取り組んでいる。しかしながら、経済的な理由等で自宅にコンピュータを持っていない生徒もおり、持っている生徒との差は大きく、通信教育の中での指導法に課題が残っている。次年度はC評価が減少するよう、またD評価がなくなるように方策を模索していきたい。

② 情報モラル指導

問:「情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	22	27.8%
B ややあてはまる	44	55.7%
C あまりあてはまらない	12	15.2%
D 全くあてはまらない	1	1.3%



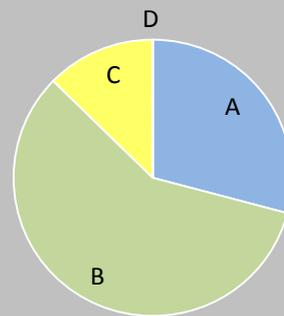
肯定的評価A・B=83.5% 昨年度89.3%。昨年度より5.8ポイント減少である。スマートフォンの普及によりIT活用能力とモラルを高める教育を表裏一体のものとしてより一層推し進める必要がある。Twitter等のSNSは生徒にとって増々身近なものとなっており、そのトラブルも少なからず起こっている。情報発信モラルの教育については学校全体で取り組み、評価の割合がさらに向上するよう努めていきたい。

(2)「人権教育・国際教育」

① 研究体制

問：「人権尊重に対するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	23	29.1%
B ややあてはまる	46	58.2%
C あまりあてはまらない	10	12.7%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

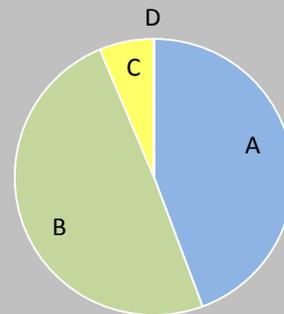


肯定的評価A・B=87.3% 昨年度86.7%。1.6ポイントの微増である。多様な生徒が入学してくる本校において、人権教育はとても重要な項目であり、新任教員への研修では必ず人権についての時間を設けている。58.2%がB評価という現状であり、これがA評価へ変わっていきけるよう取り組んでいかなくてはならない。

② 教育体制及び重点目標 - 1

問：「知性と感性の調和のとれた人間性を養い、思考力・判断力・表現力を培う指導を行っている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	35	44.3%
B ややあてはまる	39	49.4%
C あまりあてはまらない	5	6.3%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

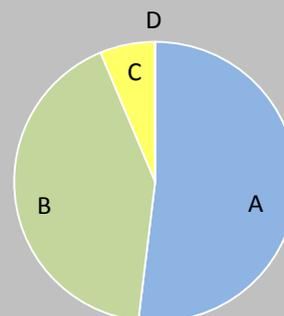


肯定的評価A・B=93.7% 昨年度90.6%。昨年度より3.1ポイント増加である。通信制という生徒の登校日数が少ない中でも、本校の教員は生徒との対面指導の時間を大切に、人間性の育成に力を入れている。また、各教科のレポートは思考力・判断力・表現力が培われるよう、工夫して作成されており、生徒の成長に繋がっている。次年度は肯定的評価がより向上するよう努めていきたい。

② 教育体制及び重点目標 - 2

問：「常に自分を律し、自主性をもって行動し、社会人として自立できる力を養う指導を行っている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	41	51.9%
B ややあてはまる	33	41.8%
C あまりあてはまらない	5	6.3%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

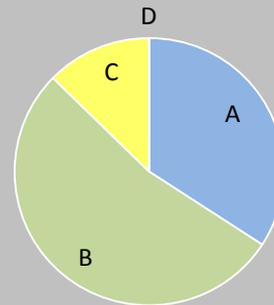


肯定的評価A・B=93.7% 昨年度96.0%。昨年度より2.3ポイント減少であるが、高い水準を維持できている。本校の生徒は自分でスクーリングへの出席計画を立て、レポートに対しても自ら時間を決めて取り組まなければならない。時間厳守の指導も徹底しており、社会人として自立できる教育体制を整えている。

② 教育体制及び重点目標 - 3

問:「国際的視野に立ち、自他を敬愛する精神を育成している。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	27	34.2%
B ややあてはまる	42	53.2%
C あまりあてはまらない	10	12.7%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

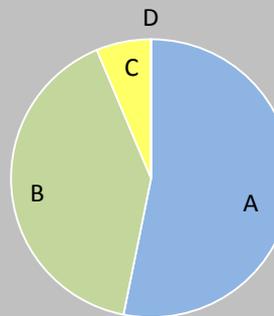


肯定的評価A・B=87.4% 昨年度92.0%。4.6ポイント減少だが、良好な水準を維持できている。本校では長年、海外語学スクーリングを推進しており、毎年数名の生徒が英語や他国の文化を海外で学んでいる。外国籍の生徒も数名在籍しており、その生徒との交流を通して、誰とも分け隔てなく接することの大切さを学んでいる。

② 教育体制及び重点目標 - 4

問:「マナーを守り、品位ある言動に努め、他者への思いやりのある豊かな心を養う指導を行っている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	42	53.2%
B ややあてはまる	32	40.5%
C あまりあてはまらない	5	6.3%
D 全くあてはまらない	0	0.0%



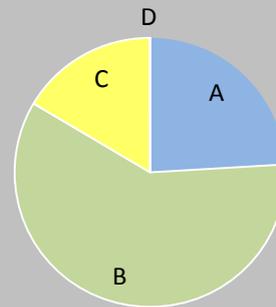
肯定的評価A・B=93.7% 昨年度94.6%。昨年度より0.9ポイント微減している。スクーリング時や学校行事などでも落ち着いて安定した状態が保たれており、不登校や人と関わることに不安を抱えていた生徒も安心して通うことができている。入学時には言動に問題のあった生徒も生徒指導部を中心に指導が行われ、3年生の頃には落ち着いた姿で卒業する生徒も多い。今後はA評価がさらに向上していくよう努めていきたい。

(3)「環境教育」

① 環境問題意識向上

問:「ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育を行っている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	19	24.1%
B ややあてはまる	47	59.5%
C あまりあてはまらない	13	16.5%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

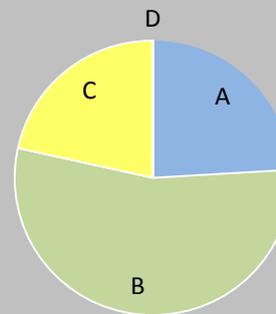


肯定的評価A・B=83.6% 昨年度81.3%。昨年度より2.3ポイントの増加である。本校では総合的な学習の中で「環境講座」を開講しており、ゴミ問題や温暖化に関する教育を行っている。しかしながら、「環境講座」は枚方本校のみの開講となっており、生徒全体へは指導が行き届いていないのが現状である。より多くの生徒が環境問題に意識をもつよう、学校全体で取り組んでいかなくてはならない。

② 実践的態度の育成

問:「生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	19	24.1%
B ややあてはまる	43	54.4%
C あまりあてはまらない	17	21.5%
D 全くあてはまらない	0	0.0%



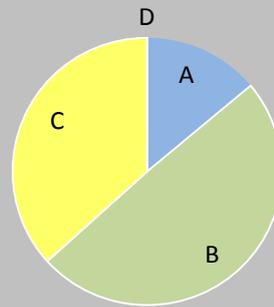
肯定的評価A・B=78.5% 昨年度73.4%。昨年度より5.1ポイント増加ある。生徒が同時刻に登下校することのない本校のシステムでは、一斉清掃を実施することが難しい。そのため、各種掲示物でゴミの分別や学校備品を丁寧に扱う指導を行っており、一定の成果はあるものの、しばしばゴミが放置されていたり、落書きが見つかるなど、校内美化の徹底はできていない。こまめに注意喚起を行い、指導の徹底を図っていききたい。

(4)「その他」

① 読書推進

問:「図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	11	13.9%
B ややあてはまる	39	49.4%
C あまりあてはまらない	29	36.7%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

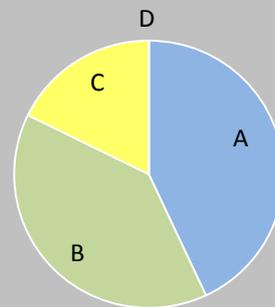


肯定的評価A・B=63.3% 昨年度64.0%。昨年度より0.7ポイント微減である。スマートフォンの普及により、今の生徒にとって情報収集をする際は手軽にインターネットを利用できる環境にあり、それが図書館の利用減少に繋がっていると思われる。書籍から情報を得る力は今後も重要な要素であり、図書室の蔵書を整備し、より利用者を増やしていきたい。

② 部活動

問:「部活動は活発である。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	34	43.0%
B ややあてはまる	31	39.2%
C あまりあてはまらない	14	17.7%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

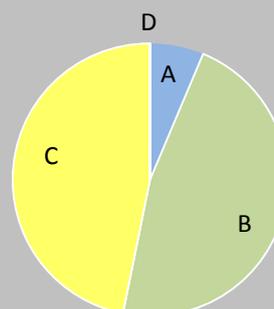


肯定的評価A・B=82.2% 昨年度90.6%。昨年より8.4ポイント減少である。本校は開講以来部活動に力を注いでおり、全国大会に毎年出場する部活動もあり、通信制高校の中でも高い評価を得ている。文化部についても活発で、文化祭での発表は好評を得ている。今後もより一層、部活動の活性化に努めていきたい。

③ ボランティア

問:「ボランティア活動は活発である。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	5	6.3%
B ややあてはまる	37	46.8%
C あまりあてはまらない	37	46.8%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

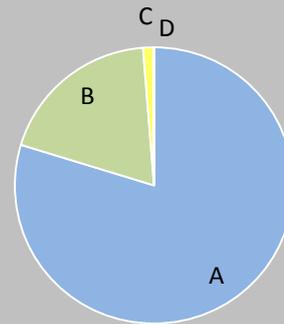


肯定的評価A・B=53.1% 昨年度53.3%。35項目中最も低い評価である。京都校では毎年祇園祭に地域の人と一緒に祭りの準備や裏方の仕事にボランティアとして参加している。また、文化祭では各校より有志が運営委員として参加している。しかし、全体の関心は低く、積極的に参加するまでになっていない。今後啓発指導とともに多くの場を設けるようにすることが大切であり、一層の努力が必要である。

④ 学校行事

問:「特別活動などの学校行事は活発である。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	63	79.7%
B ややあてはまる	15	19.0%
C あまりあてはまらない	1	1.3%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

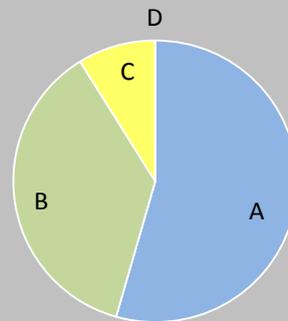


肯定的評価A・B=98.7% 昨年度100%。高い肯定的評価を維持することができている。活発な特別活動は本校の大きな特色の1つであり、5つの各分校の地域に根差した特別活動や、通信制では珍しい文化祭を毎年開催するなど、年間通じて数多くの特別活動を実施している。特別活動は生徒同士の交流の場となっており、集団行動が苦手な生徒にとって、成長の機会ともなっている。

⑤ スポーツ・芸術文化

問:「スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	43	54.4%
B ややあてはまる	29	36.7%
C あまりあてはまらない	7	8.9%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

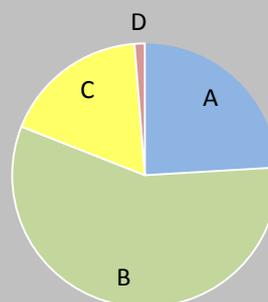


肯定的評価A・B=91.1% 昨年度94.7%。昨年度より3.6ポイント減少しているが、高い水準を維持できている。普段部活動に所属していない生徒も参加できる近畿通信制体育大会や文化祭、劇団四季や宝塚歌劇団の鑑賞また和菓子づくりなど、多彩なジャンルで数多くの学校行事が毎年実施されており、生徒の貴重な体験の機会となっている。今後も増々充実した行事を実施していき、生徒の成長を促していきたい。

分類2 「教育内容・教育の課題」 集計結果

(1)「情報教育」の 集計結果

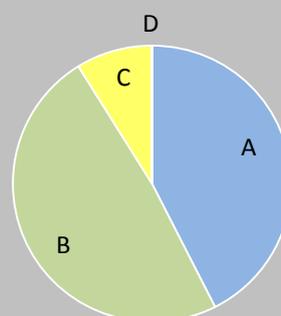
項目	実数	割合
A よくあてはまる	38	24.1%
B ややあてはまる	90	57.0%
C あまりあてはまらない	28	17.7%
D 全くあてはまらない	2	1.3%



肯定的評価A・B=81.1% 昨年度86.0%。昨年度より4.9ポイント減少である。スマートフォンの普及によりSNSに関するトラブルは全国的に増加の一途を辿っており、本校にとっても無関係な話ではない。情報発信モラルの教育は今後ますます重要となることであり、本校でも学校全体で取り組んでいく課題である。

(2)「人権教育・国際教育」の 集計結果

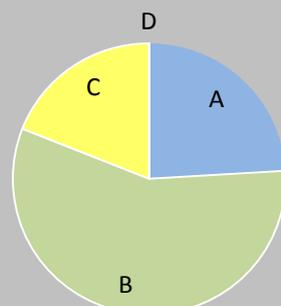
項目	実数	割合
A よくあてはまる	168	42.5%
B ややあてはまる	192	48.6%
C あまりあてはまらない	35	8.9%
D 全くあてはまらない	0	0.0%



肯定的評価A・B=91.1% 昨年度92.0%。昨年度より0.9ポイントの微減であるが、高い水準を維持できている。多種多様な生徒が入学する本校においては、生徒一人一人がそれぞれの違いを認め合い、享受していく必要がある。教科指導、特別活動、総合的な学習の時間など、あらゆる場面で人権教育を推進し、人間性に富んだ豊かな心をもった生徒の育成に努めていきたい。

(3)「環境教育」の 集計結果

項目	実数	割合
A よくあてはまる	38	24.1%
B ややあてはまる	90	57.0%
C あまりあてはまらない	30	19.0%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

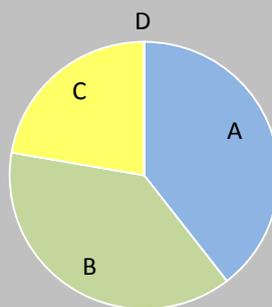


肯定的評価A・B=81.1% 昨年度77.3%。昨年度より3.8ポイントの増加である。生徒の登校時間がまちまちな本校においては、一斉清掃などの校内美化指導は難しいが、生徒と対面するあらゆる場面で、校内美化、並びに環境問題に対する意識を醸成し、次年度は肯定的評価が向上するよう努めていきたい。

(4)「その他」の 集計結果

項目	実数	割合
A よくあてはまる	156	39.5%
B ややあてはまる	151	38.2%
C あまりあてはまらない	88	22.3%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

肯定的評価A・B=77.7% 昨年度80.5%。昨年度より2.8ポイント減少である。「読書推進」「部活動」「ボランティア」「学校行事」「スポーツ・芸術活動」を集計したものであるが、「部活動」、「学校行事」、「スポーツ・芸術活動」は高い評価であるが、「読書推進」と「ボランティア」は低い評価である。今後各校で図書室を整備し、読書の大切さを啓発していくことが大切である。また、ボランティア活動の場を設けるようにすることが大切である。



分類 3 「生徒指導・支援」

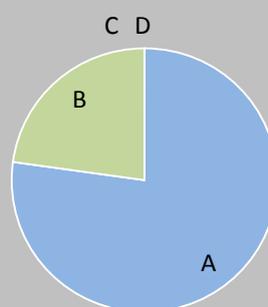
(1)「生徒指導」

① 指導方針の一貫性

問:「生徒指導は学校の方針に従っている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	61	77.2%
B ややあてはまる	18	22.8%
C あまりあてはまらない	0	0.0%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

肯定的評価A・B=100% 昨年度100%。全教員が学校方針に則って生徒指導を行っており、今年度も肯定的評価が100%であった。次年度もこの結果を維持できるよう、全教員が共通認識のもと、指導を行っていききたい。

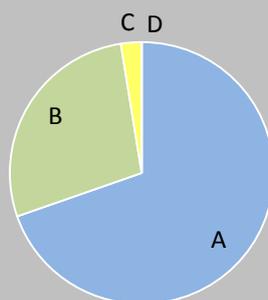


② 生活指導について

問:「生徒の生活指導に組織的に対応する体制がある。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	55	69.6%
B ややあてはまる	22	27.8%
C あまりあてはまらない	2	2.5%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

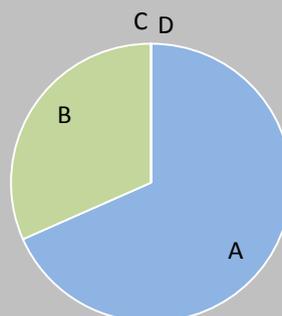
肯定的評価A・B=97.5% 昨年度96.0%。昨年より1.5ポイント増加である。生活指導には生徒指導部やその生徒のチューターが中心となり組織的に全教職員で行う体制が整っており、昨年度に引き続き良い結果となっている。非常勤講師にも講師会等で共通認識を図っている。



③ 家庭との連携状況

問:「生徒指導において、家庭との連携が取れている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	54	68.4%
B ややあてはまる	25	31.6%
C あまりあてはまらない	0	0.0%
D 全くあてはまらない	0	0.0%



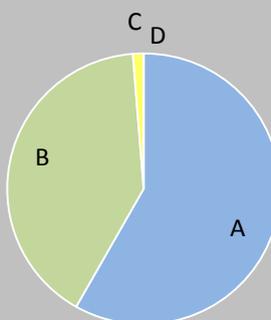
肯定的評価A・B=100% 昨年度98.6%。昨年度より1.4ポイント増加し肯定的評価100%である。何か生徒指導に関する事案が生じた際は、必ず保護者への連絡も行っており、教員間でその共通理解がなされていることが、今回の結果へ反映されたものと思われる。次年度もこの水準を維持し、生徒指導にあたっていきたい。

(2)「生徒支援」

① 学習指導について

問:「学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫、改善を行っている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	46	58.2%
B ややあてはまる	32	40.5%
C あまりあてはまらない	1	1.3%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

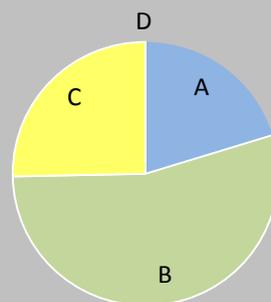


肯定的評価A・B=98.7% 昨年度98.6%。昨年度より微減だが、高い評価である。生徒の実態については教科会で活発に情報交換がなされており、レポートやスクーリングの内容にしっかりと反映されている。教科学習に躓きのある生徒には一人一人個別に指導を行い、卒業に向けて丁寧な指導が行われている。

② カウンセリング体制

問:「カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	16	20.3%
B ややあてはまる	43	54.4%
C あまりあてはまらない	20	25.3%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

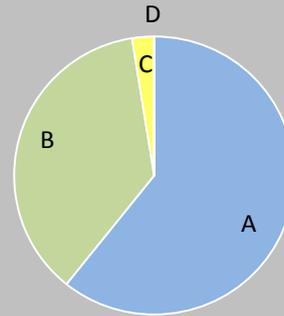


肯定的評価A・B=74.7% 昨年度76.0%。1.3ポイントの減少である。多様な生徒が入学する本校においては、生徒に発する言葉一つ一つについて細心の注意を払う必要があり、カウンセリングマインドの習得は必須である。カウンセリング研究会に本校も所属しているが、その担当となった教員以外はなかなか研修に参加する機会が無く、B評価の割合が多い原因と思われる。カウンセリングマインドの研修体制をいかに整えるか、模索していく必要がある。

③ 進路指導

問:「生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	48	60.8%
B ややあてはまる	29	36.7%
C あまりあてはまらない	2	2.5%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

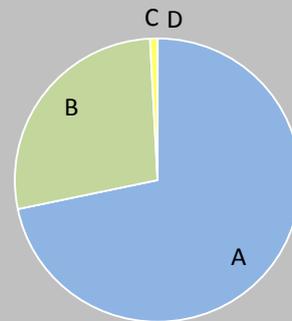


肯定的評価A・B=97.5% 昨年度97.4%。昨年度より0.1ポイントの微増、高い水準を維持できている。文系・理系のどちらの進学を希望しても対応できるよう、幅広い科目を開講しており、進路指導部を中心として進路決定のサポートを行っている。就職を希望した生徒に対しても、履歴書の書き方や面接指導に至るまで、丁寧な指導を行っており、生徒の希望した進路を実現させるための体制が整っている。

分類3 「生徒指導・支援」 集計結果

(1)「生徒指導」の 集計結果

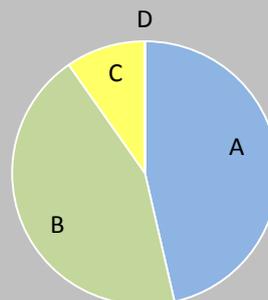
項目	実数	割合
A よくあてはまる	170	71.7%
B ややあてはまる	65	27.4%
C あまりあてはまらない	2	0.8%
D 全くあてはまらない	0	0.0%



肯定的評価A・B=99.1% 昨年度98.2%。昨年度より0.9ポイント増加した。生徒指導部、チューター、保護者の三者が一体となって指導が行えており、落ち着いた雰囲気の中、生徒は安心して登校できている。今後もより一層、三者の連携を強め、丁寧な生徒指導に努めていきたい。

(2)「生徒支援」の 集計結果

項目	実数	割合
A よくあてはまる	110	46.4%
B ややあてはまる	104	43.9%
C あまりあてはまらない	23	9.7%
D 全くあてはまらない	0	0.0%



肯定的評価A・B=90.3%。昨年度90.7%。昨年度より0.4ポイントの微減である。学習指導については、梅田校の進学クラス「Blue Ocean」・京都校の大学進学育成プログラなどの取り組みや、1年次生の基礎学力習得等を目的としたクラス制の導入が各分校でなされており、今後改善が期待できる。カウンセリング体制については、教員一人一人のカウンセリングマインド習得に向け、研修体制を模索していく必要がある。

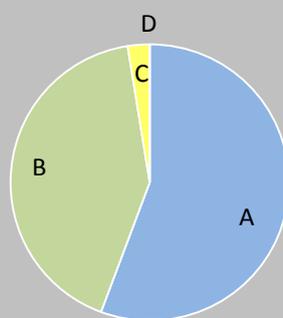
分類 4 「教員研修・資質向上」

(1)「教員研修」

① 教員の資質向上について

問：「教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	44	55.7%
B ややあてはまる	33	41.8%
C あまりあてはまらない	2	2.5%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

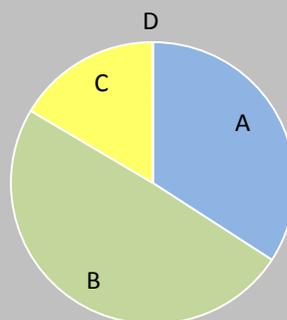


肯定的評価A・B=97.5% 昨年度96.0%。昨年度より1.5ポイント増加し、高い水準を維持することができている。研究授業が各教科で毎年行われており、分校で5校に分かれているが、その際には同教科の教員全員が集まり、活発な意見交換が行われている。今後もこの取り組みは継続し、より実りのある研究授業が行われるよう、さらなる工夫を模索していきたい。

② 校内研修

問：「効果的に校内研修計画を立案し、教職員に実施している。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	27	34.2%
B ややあてはまる	39	49.4%
C あまりあてはまらない	13	16.5%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

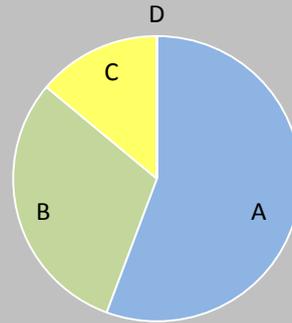


肯定的評価A・B=83.6% 昨年度92.0%。昨年度より8.4ポイント減少である。年度初めには新任研修、夏季休暇中には中堅教員や管理職の研修などが計画され、それぞれの立場・役割に沿った内容の研修機会が設けられている。講義形式だけでなく、参加者一人一人が意見を発表したり、ディスカッションの時間も設けられていたり、工夫された内容の研修となっており、教員の資質向上に繋がっていると思われる。

③ 初任者のサポート状況

問：「初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	44	55.7%
B ややあてはまる	24	30.4%
C あまりあてはまらない	11	13.9%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

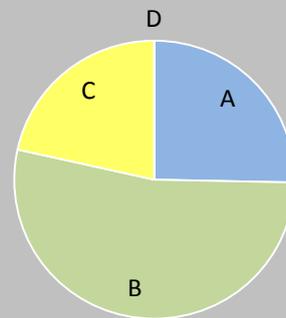


肯定的評価A・B=86.1% 昨年度93.4%。昨年度より7.3ポイント減少である。新任教員の多くは通信制のシステムに馴染みがなく、年間通してサポートが必要である。また、不登校や、心に悩みを抱えて入学してくる生徒も多く、そういった配慮の要する生徒への対応についても適宜サポートを行っている。教員数が少ない分校にとっては、新任教員であっても即戦力として様々な役割を担ってもらう必要があり、今後も新任教員のサポート体制についてはより一層充実させていく必要がある。

④ 校外研修

問：「教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	20	25.3%
B ややあてはまる	42	53.2%
C あまりあてはまらない	17	21.5%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

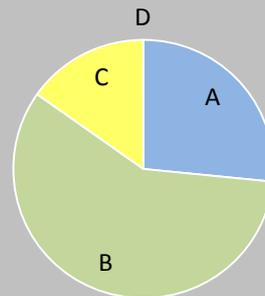


肯定的評価A・B=78.5% 昨年度81.3%。昨年度より2.8ポイントの減少である。肯定的評価全体としては概ね8割である。しかしながら、B評価が5割以上を占めている状況であり、まだ完全には研修を受ける体制が整っているとはいえない。多忙な業務の中、校外研修に参加するための時間的余裕がないことも原因の1つと考えられる。今後改善点を模索し、A評価が増加するよう取り組んでいきたい。

⑤ 研修成果の共有状況

問：「研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。」

項目	実数	割合
A よくあてはまる	21	26.6%
B ややあてはまる	46	58.2%
C あまりあてはまらない	12	15.2%
D 全くあてはまらない	0	0.0%

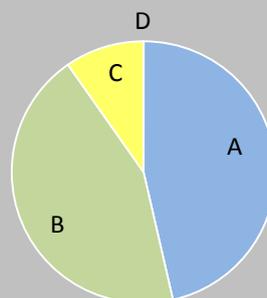


肯定的評価A・B=84.8% 昨年度82.7%。昨年度より2.1ポイントの増加である。職員朝礼等で各分校内では情報を共有することは出来るが、他の分校への情報共有は不十分な状態であると言える。効率的な会議進行にも配慮しながら、部会や教科会の機会に情報共有できるよう、今後改善に努めていきたい。

分類4 「教員研修・資質向上」 集計結果

(1)「教員研修」の 集計結果

項目	実数	割合
A よくあてはまる	156	39.5%
B ややあてはまる	184	46.6%
C あまりあてはまらない	55	13.9%
D 全くあてはまらない	0	0.0%



肯定的評価A・B=86.1% 昨年度89.1%。昨年度より3.0ポイントの減少である。校内研修や新任教員へのサポートについては肯定的評価が8割を超える良い結果であったが、校外研修とその情報共有については課題が残っている。教育改革や入試改革がさげばれている昨今では、外部研修の重要性が増々高まっており、今後改善に取り組んでいく必要がある。

2 総括

平成30年度「学校評価」まとめ

長尾谷高等学校 学校評価委員会

1. 調査項目は

平成30年度(以下H30と表記する)調査は35項目。評価基準はA B C D 4段階になっているが、より傾向をつかむため肯定的評価(A B)と否定的評価(C D)に分けて考察をする。

資料参照「平成30年度学校評価集計 年度別(30 29 28年度)A+B A,B C+D比較表」

2. 各年度の平均値、A+B(肯定的評価)の高い項目数

- ・H30の全体平均値は88.9%、3年間で一番高い評価になっているもの：7項目
H29の全体平均値は90.2%、3年間で一番高い評価になっているもの：9項目
H28の全体平均値は87.2%、3年間で一番高い評価になっているもの：21項目
- ・全体平均値は昨年度より微減し、3年間の中で2番目の高さである。3年間で一番高い評価項目数は今年度が最も少ない。

3. H30(A B)とH29(A B)の全体比較

H29は「学校運営94.4%」(H30は0.2ポイント増加)、「教育内容・教育の課題83.5%」(1.5ポイント減少)、「生徒指導・支援94.7%」(0.2ポイント増加)、「教員研修・資質向上86.1%」(3.0ポイント減少)。「全体88.9%」(1.3ポイント減少)である。

4. H30(A B)がH29(A B)より高い評価になっているもの：7項目(うち3項目は同値)

7項目すべてが3ポイント以下の増加であり、大きな変化はない。

この3年間で一番高い評価になっているものでH28が21項目H29が9項目H30年が7項目と減少しかつ増加ポイントも3ポイント以下の増加であった。改善点を見つけ更なる飛躍のための工夫が必要だと考える。

5. H30(A B)がH29(A B)より低い評価になっているもの：17項目

17項目中9項目は3ポイント以下の減少であった。次の8項目が3.0ポイント以上の減少となった。

「11情報能力の育成」(-4.2)、「12情報モラル指導」(-5.8)、「16教育体制及び重点目標一3」(-4.7)、「19実践的態度の育成」(-5.2)、「21部活動」(-8.4)、「24スポーツ・芸術文化」(-3.6)、「32校内研修」(-8.5)、「33初任者のサポート状況」(-7.2)

最も減少幅の大きい「32校内研修」については、専任教諭の研修を8月に毎年実施しているが、常勤講師を含めた研修は、8月初旬に自主研修として昨年まで実施していたが、今年度は教職員対象の全体の研修は実施していなかった事が原因と考えられる。

6. H30全体として

①肯定的評価(A B)が100%になっている項目：2項目

「25指導方針の一貫性」、「27家庭との連携状況」の2項目については、本校が以前から力を入れて取り組んできたことであり、全教職員が肯定的評価(A B)を行っていることは高く評価できる。

②とくに評価が低い項目：2項目

「20読書推進63.0%」、「22ボランティア53.2%」の2項目である。

「20 読書推進」については、現在ほとんどの生徒がスマートフォンを持っており、図書室を利用しなくともいつでもインターネットで情報収集ができる環境にある。しかしながら、書籍から情報を読み取る力はこれからも重要なことであり、興味のある本を置くなど、図書室の利用者を増やす取り組みを行っていく必要がある。

「22 ボランティア」については、活動としてはないが、言うならば枚方校の文化祭に各分校から有志の生徒が文化祭実行委員として参加し、自ら積極的に運営に携わっている。また、枚方本校では毎年、生徒自身が描いた絵馬を近隣の神社に奉納したり、神輿として活動したり、京都校では祇園祭で町内の山鉾（蟻螂山）巡行の曳き手として男子生徒が売り子として女子生徒が参加している。ともに限られた一部生徒の参加であり、まだ学校全体としてボランティアが活発とは言い難い状況である。

今後一層、生徒への啓発指導に努め、改善を図っていく必要がある。

③肯定的評価（A B）が 80%以下の項目：4項目（上記 6. ②を除く）

「11 情報能力育成 78.5%」、「19 実践的態度の育成 78.5%」「カウンセリング体制 74.7%」「34 校外研修 78.5%」の4項目である。

「11 情報能力の育成」については、SNS が普及している社会に適応するため、情報の信憑性や価値を正確に評価できるメディアリテラシーの育成、情報モラルの育成が不可欠である。また、複雑化するインターネット上のトラブルに学校がどこまで介入するかは高度な状況判断が求められる。教員間で共通の意識をもって指導できるよう研修やガイドラインの作成など対策を講じることが必要であると考えられる。

「19 実践的態度の育成」については、生徒の登校時間がまちまちな本校のシステムの中では、一斉清掃の指導を行うことが難しい。掲示物等で、ゴミの分別や学校備品を丁寧に扱うよう注意喚起しているが、しばしばゴミの放置が見受けられる。今後さらに指導を徹底し、基本的な生活態度が身に付くよう、改善を図っていききたい。

「29 カウンセリング体制」については、昨年度に比べ肯定的評価（A B）が 1.3 ポイント減少している。本校に入学する生徒の中には、過去に不登校であったり、対人不安を抱えていたり、悩みを持って入学する生徒が少なくないため、教員にとってカウンセリングマインドの習得は必要不可欠である。本校はカウンセリング研究会にも所属しているが、その担当となった教員以外はなかなか参加する機会がなく、課題となっている。学校全体でカウンセリングマインドについて研修できる体制を整えていく必要がある。

「34 校外研修」については、昨年度に比べ肯定的評価（A B）が 2.8 ポイント減少している。日々生徒対応で、学外研修に参加できる機会が少ないのは仕方がない部分もある。

7. 総括

肯定的評価（A B）が、昨年度と比べ、全 35 項目うち 17 項目で減少し、反省すべき結果となった。とくに、5. で挙げた 3.0 ポイント以上減少した 7 項目については今後改善に取り組んでいかなくてはならない。しかしながら、従来より他の通信制高校に比べ本校の強みである、教科指導や生徒指導、学校行事に関する項目は高い評価が現れており、これらは今後も維持していきたい。また、個々の教職員としてのスキルアップを図るとが、学校全体の組織としてレベルが上がる。また、改善すべき点は、組織的に問題解決のために努めていかなくてはならない。

自己評価(学校運営・教育内容・教育の課題)アンケート用紙

所属校() 氏名()④

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	番号	設 問	評価
学校運営	教育課程	学習指導要領の対応状況	1	教育課程は学習指導要領に沿っている。	
		教育計画について	2	年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。	
	教職員連携	教員・教科間連携状況	3	教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	
		教員と事務職員の連携状況	4	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携はとられている。	
		会議の有効性	5	教職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している。	
	情報公開	ホームページの活用状況	6	学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。	
		学校見学、説明会実施状況	7	学校見学、説明会等を積極的に行い、全員で取り組んでいる。	
	危機管理	役割分担について	8	事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。	
		危機管理対応状況	9	危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。	
	開かれた学校づくり	地域交流について	10	地域や地域住民との交流ができています。	
教育内容・教育の課題	情報教育	情報能力育成	11	総合的にIT活用能力を磨き、様々な問題に対するアプローチの幅を広げる指導ができています。	
		情報モラル指導	12	情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。	
	人権教育・国際教育	研究体制	13	人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。	
		教育体制及び重点目標	14	知性と感性の調和のとれた人間性を養い、思考力・判断力・表現力を培う指導を行っている。	
			15	常に自分を律し、自主性をもって行動し、社会人として自立できる力を養う指導を行っている。	
			16	国際的視野に立ち、自他を敬愛する精神を育成している。	
			17	マナーを守り、品位ある言動に努め、他者への思いやりのある豊かな心を養う指導を行っている。	
	環境教育	環境問題意識向上	18	ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育を行っている。	
		実践的態度の育成	19	生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。	
	その他	読書推進	20	図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。	
		部活動	21	部活動は活発である。	
		ボランティア	22	ボランティア活動は活発である。	
		学校行事	23	特別活動などの学校行事は活発である。	
		スポーツ・芸術文化	24	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	

※提出締切日：平成31年1月15日（火）

自己評価(生徒指導・支援・教員研修・資質向上)アンケート用紙

所属校() 氏名()[Ⓜ]
 A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	番号	設 問	評価
生徒指導・支援	生徒指導	指導方針の一貫性	25	生徒指導は学校の方針に従っている。	
		生活指導について	26	生徒の生活指導に組織的に対応する体制がある。	
		家庭との連携状況	27	生徒指導において、家庭との連携ができています。	
	生徒支援	学習指導について	28	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	
		カウンセリング体制	29	カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。	
		進路指導について	30	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。	
教員研修・資質向上	教員研修	教員の資質向上について	31	教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。	
		校内研修	32	効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。	
		初任者のサポート状況	33	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。	
		校外研修	34	教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。	
		研修成果の共有状況	35	研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。	

※提出締切日：平成31年1月15日（火）

平成30年度学校評価アンケート集計一覧(実数)

分類	番号	評価項目	枚方校				京都校				梅田校				奈良校				なんば校				全校			
			A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
学校運営	1	学習指導要領の対応状況	18	5	1	0	6	5	1	0	11	4	0	0	5	2	0	0	18	3	0	0	58	19	2	0
	2	教育計画について	18	6	0	0	7	3	2	0	13	2	0	0	5	2	0	0	18	3	0	0	61	16	2	0
	3	教員・教科間連携状況	15	9	0	0	4	8	0	0	9	6	0	0	3	3	1	0	13	8	0	0	44	34	1	0
	4	教員と事務職員の連携状況	11	12	1	0	5	5	2	0	9	6	0	0	5	1	1	0	16	5	0	0	46	29	4	0
	5	会議の有効性	12	12	0	0	4	6	2	0	9	5	1	0	3	2	2	0	15	5	1	0	43	30	6	0
	6	ホームページの活用状況	15	9	0	0	6	4	2	0	12	2	1	0	3	4	0	0	19	2	0	0	55	21	3	0
	7	学校見学、説明会実施状況	19	5	0	0	8	3	1	0	14	1	0	0	5	2	0	0	20	1	0	0	66	12	1	0
	8	役割分担について	9	13	2	0	4	6	2	0	5	9	1	0	4	1	2	0	15	6	0	0	37	35	7	0
	9	危機管理対応状況	8	14	2	0	3	9	0	0	7	8	0	0	3	2	2	0	15	6	0	0	36	39	4	0
	10	地域交流について	9	13	2	0	7	5	0	0	2	7	6	0	1	2	4	0	2	18	1	0	21	45	13	0
	合計			134	98	8	0	54	54	12	0	91	50	9	0	37	21	12	0	151	57	2	0	467	280	43
教育内容・教育の課題	11	情報能力育成	4	17	3	0	1	5	6	0	3	9	2	1	1	2	4	0	7	13	1	0	16	46	16	1
	12	情報モラル指導	5	17	2	0	2	6	4	0	4	7	3	1	1	4	2	0	10	10	1	0	22	44	12	1
	13	研究体制	4	18	2	0	2	7	3	0	5	8	2	0	1	4	2	0	11	9	1	0	23	46	10	0
	14	教育体制及び重点目標-1	10	13	1	0	4	5	3	0	6	8	1	0	2	5	0	0	13	8	0	0	35	39	5	0
	15	教育体制及び重点目標-2	13	10	1	0	3	6	3	0	6	8	1	0	3	4	0	0	16	5	0	0	41	33	5	0
	16	教育体制及び重点目標-3	7	15	2	0	3	6	3	0	6	6	3	0	1	4	2	0	10	11	0	0	27	42	10	0
	17	教育体制及び重点目標-4	11	11	2	0	4	6	2	0	6	8	1	0	4	3	0	0	17	4	0	0	42	32	5	0
	18	環境問題意識向上	6	15	3	0	2	7	3	0	3	9	3	0	2	2	3	0	6	14	1	0	19	47	13	0
	19	実践的態度の育成	6	12	6	0	0	8	4	0	3	8	4	0	3	2	2	0	7	13	1	0	19	43	17	0
	20	読書推進	4	15	5	0	1	2	9	0	2	3	10	0	1	4	2	0	3	15	3	0	11	39	29	0
	21	部活動	16	8	0	0	2	4	6	0	4	6	5	0	2	3	2	0	10	10	1	0	34	31	14	0
	22	ボランティア	2	14	8	0	3	3	6	0	0	4	11	0	0	2	5	0	0	14	7	0	5	37	37	0
	23	学校行事	19	5	0	0	5	6	1	0	14	1	0	0	5	2	0	0	20	1	0	0	63	15	1	0
	24	スポーツ・芸術文化	14	9	1	0	3	5	4	0	6	8	1	0	3	3	1	0	17	4	0	0	43	29	7	0
合計			121	179	36	0	35	76	57	0	68	93	47	2	29	44	25	0	147	131	16	0	400	523	181	2
生徒指導・支援	25	指導方針の一貫性	18	6	0	0	6	6	0	0	12	3	0	0	5	2	0	0	20	1	0	0	61	18	0	0
	26	生活指導について	15	9	0	0	6	4	2	0	10	5	0	0	5	2	0	0	19	2	0	0	55	22	2	0
	27	家庭との連携状況	15	9	0	0	7	5	0	0	10	5	0	0	3	4	0	0	19	2	0	0	54	25	0	0
	28	学習指導について	15	9	0	0	5	7	0	0	7	7	1	0	2	5	0	0	17	4	0	0	46	32	1	0
	29	カウンセリング体制	5	15	4	0	2	6	4	0	1	9	5	0	0	2	5	0	8	11	2	0	16	43	20	0
	30	進路指導について	15	9	0	0	4	7	1	0	9	5	1	0	4	3	0	0	16	5	0	0	48	29	2	0
合計			83	57	4	0	30	35	7	0	49	34	7	0	19	18	5	0	99	25	2	0	280	169	25	0
教員研修・資質向上	31	教員の資質向上について	16	7	1	0	7	5	0	0	5	9	1	0	2	5	0	0	14	7	0	0	44	33	2	0
	32	校内研修	7	16	1	0	3	4	5	0	5	7	3	0	2	3	2	0	10	9	2	0	27	39	13	0
	33	初任者のサポート状況	13	7	4	0	5	3	4	0	8	6	1	0	4	1	2	0	14	7	0	0	44	24	11	0
	34	校外研修	6	10	8	0	3	6	3	0	5	8	2	0	2	2	3	0	4	16	1	0	20	42	17	0
	35	研修成果の共有状況	5	14	5	0	4	6	2	0	4	9	2	0	1	4	2	0	7	13	1	0	21	46	12	0
合計			47	54	19	0	22	24	14	0	27	39	9	0	11	15	9	0	49	52	4	0	156	184	55	0

平成30年度学校評価アンケート集計一覧(割合)

分類	番号	評価項目	枚方校				京都校				梅田校				奈良校				なんば校				全校			
			A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
学校運営	1	学習指導要領の対応状況	75%	20.8%	4.2%	0.0%	50.0%	41.7%	8.3%	0.0%	73.3%	26.7%	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	73.4%	24.1%	2.5%	0.0%
	2	教育計画について	75%	25.0%	0.0%	0.0%	58.3%	25.0%	16.7%	0.0%	86.7%	13.3%	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	77.2%	20.3%	2.5%	0.0%
	3	教員・教科間連携状況	63%	37.5%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%	61.9%	38.1%	0.0%	0.0%	55.7%	43.0%	1.3%	0.0%
	4	教員と事務職員の連携状況	46%	50.0%	4.2%	0.0%	41.7%	41.7%	16.7%	0.0%	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	71.4%	14.3%	14.3%	0.0%	76.2%	23.8%	0.0%	0.0%	58.2%	36.7%	5.1%	0.0%
	5	会議の有効性	50%	50.0%	0.0%	0.0%	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%	60.0%	33.3%	6.7%	0.0%	42.9%	28.6%	28.6%	0.0%	71.4%	23.8%	4.8%	0.0%	54.4%	38.0%	7.6%	0.0%
	6	ホームページの活用状況	63%	37.5%	0.0%	0.0%	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	80.0%	13.3%	6.7%	0.0%	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	90.5%	9.5%	0.0%	0.0%	69.6%	26.6%	3.8%	0.0%
	7	学校見学、説明会実施状況	79%	20.8%	0.0%	0.0%	66.7%	25.0%	8.3%	0.0%	93.3%	6.7%	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	95.2%	4.8%	0.0%	0.0%	83.5%	15.2%	1.3%	0.0%
	8	役割分担について	38%	54.2%	8.3%	0.0%	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%	33.3%	60.0%	6.7%	0.0%	57.1%	14.3%	28.6%	0.0%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	46.8%	44.3%	8.9%	0.0%
	9	危機管理対応状況	33%	58.3%	8.3%	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	46.7%	53.3%	0.0%	0.0%	42.9%	28.6%	28.6%	0.0%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	45.6%	49.4%	5.1%	0.0%
	10	地域交流について	38%	54.2%	8.3%	0.0%	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%	13.3%	46.7%	40.0%	0.0%	14.3%	28.6%	57.1%	0.0%	9.5%	85.7%	4.8%	0.0%	26.6%	57.0%	16.5%	0.0%
	合計			56%	40.8%	3.3%	0.0%	45.0%	45.0%	10.0%	0.0%	60.7%	33.3%	6.0%	0.0%	52.9%	30.0%	17.1%	0.0%	71.9%	27.1%	1.0%	0.0%	59.1%	35.4%	5.4%
教育内容・教育の課題	11	情報能力育成	17%	70.8%	12.5%	0.0%	8.3%	41.7%	50.0%	0.0%	20.0%	60.0%	13.3%	6.7%	14.3%	28.6%	57.1%	0.0%	33.3%	61.9%	4.8%	0.0%	20.3%	58.2%	20.3%	1.3%
	12	情報モラル指導	21%	70.8%	8.3%	0.0%	16.7%	50.0%	33.3%	0.0%	26.7%	46.7%	20.0%	6.7%	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%	47.6%	47.6%	4.8%	0.0%	27.8%	55.7%	15.2%	1.3%
	13	研究体制	17%	75.0%	8.3%	0.0%	16.7%	58.3%	25.0%	0.0%	33.3%	53.3%	13.3%	0.0%	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%	52.4%	42.9%	4.8%	0.0%	29.1%	58.2%	12.7%	0.0%
	14	教育体制及び重点目標-1	42%	54.2%	4.2%	0.0%	33.3%	41.7%	25.0%	0.0%	40.0%	53.3%	6.7%	0.0%	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	61.9%	38.1%	0.0%	0.0%	44.3%	49.4%	6.3%	0.0%
	15	教育体制及び重点目標-2	54%	41.7%	4.2%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	40.0%	53.3%	6.7%	0.0%	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	76.2%	23.8%	0.0%	0.0%	51.9%	41.8%	6.3%	0.0%
	16	教育体制及び重点目標-3	29%	62.5%	8.3%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%	47.6%	52.4%	0.0%	0.0%	34.2%	53.2%	12.7%	0.0%
	17	教育体制及び重点目標-4	46%	45.8%	8.3%	0.0%	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%	40.0%	53.3%	6.7%	0.0%	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	81.0%	19.0%	0.0%	0.0%	53.2%	40.5%	6.3%	0.0%
	18	環境問題意識向上	25%	62.5%	12.5%	0.0%	16.7%	58.3%	25.0%	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	28.6%	28.6%	42.9%	0.0%	28.6%	66.7%	4.8%	0.0%	24.1%	59.5%	16.5%	0.0%
	19	実践的態度の育成	25%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	20.0%	53.3%	26.7%	0.0%	42.9%	28.6%	28.6%	0.0%	33.3%	61.9%	4.8%	0.0%	24.1%	54.4%	21.5%	0.0%
	20	読書推進	17%	62.5%	20.8%	0.0%	8.3%	16.7%	75.0%	0.0%	13.3%	20.0%	66.7%	0.0%	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%	14.3%	71.4%	14.3%	0.0%	13.9%	49.4%	36.7%	0.0%
	21	部活動	67%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	33.3%	50.0%	0.0%	26.7%	40.0%	33.3%	0.0%	28.6%	42.9%	28.6%	0.0%	47.6%	47.6%	4.8%	0.0%	43.0%	39.2%	17.7%	0.0%
	22	ボランティア	8%	58.3%	33.3%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	26.7%	73.3%	0.0%	0.0%	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	6.3%	46.8%	46.8%	0.0%
	23	学校行事	79%	20.8%	0.0%	0.0%	41.7%	50.0%	8.3%	0.0%	93.3%	6.7%	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	95.2%	4.8%	0.0%	0.0%	79.7%	19.0%	1.3%	0.0%
	24	スポーツ・芸術文化	58%	37.5%	4.2%	0.0%	25.0%	41.7%	33.3%	0.0%	40.0%	53.3%	6.7%	0.0%	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%	81.0%	19.0%	0.0%	0.0%	54.4%	36.7%	8.9%	0.0%
合計			36%	53.3%	10.7%	0.0%	20.8%	45.2%	33.9%	0.0%	32.4%	44.3%	22.4%	1.0%	29.6%	44.9%	25.5%	0.0%	50.0%	44.6%	5.4%	0.0%	36.2%	47.3%	16.4%	0.2%
生徒指導・支援	25	指導方針の一貫性	75%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	95.2%	4.8%	0.0%	0.0%	77.2%	22.8%	0.0%	0.0%
	26	生活指導について	63%	37.5%	0.0%	0.0%	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	90.5%	9.5%	0.0%	0.0%	69.6%	27.8%	2.5%	0.0%
	27	家庭との連携状況	63%	37.5%	0.0%	0.0%	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	90.5%	9.5%	0.0%	0.0%	68.4%	31.6%	0.0%	0.0%
	28	学習指導について	63%	37.5%	0.0%	0.0%	41.7%	58.3%	0.0%	0.0%	46.7%	46.7%	6.7%	0.0%	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	81.0%	19.0%	0.0%	0.0%	58.2%	40.5%	1.3%	0.0%
	29	カウンセリング体制	21%	62.5%	16.7%	0.0%	16.7%	50.0%	33.3%	0.0%	6.7%	60.0%	33.3%	0.0%	0.0%	28.6%	71.4%	0.0%	38.1%	52.4%	9.5%	0.0%	20.3%	54.4%	25.3%	0.0%
	30	進路指導について	63%	37.5%	0.0%	0.0%	33.3%	58.3%	8.3%	0.0%	60.0%	33.3%	6.7%	0.0%	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	76.2%	23.8%	0.0%	0.0%	60.8%	36.7%	2.5%	0.0%
合計			58%	39.6%	2.8%	0.0%	41.7%	48.6%	9.7%	0.0%	54.4%	37.8%	7.8%	0.0%	45.2%	42.9%	11.9%	0.0%	78.6%	19.8%	1.6%	0.0%	59.1%	35.7%	5.3%	0.0%
教員研修・資質向上	31	教員の資質向上について	67%	29.2%	4.2%	0.0%	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%	33.3%	60.0%	6.7%	0.0%	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	55.7%	41.8%	2.5%	0.0%
	32	校内研修	29%	66.7%	4.2%	0.0%	25.0%	33.3%	41.7%	0.0%	33.3%	46.7%	20.0%	0.0%	28.6%	42.9%	28.6%	0.0%	47.6%	42.9%	9.5%	0.0%	34.2%	49.4%	16.5%	0.0%
	33	初任者のサポート状況	54%	29.2%	16.7%	0.0%	41.7%	25.0%	33.3%	0.0%	53.3%	40.0%	6.7%	0.0%	57.1%	14.3%	28.6%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	55.7%	30.4%	13.9%	0.0%
	34	校外研修	25%	41.7%	33.3%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	33.3%	53.3%	13.3%	0.0%	28.6%	28.6%	42.9%	0.0%	19.0%	76.2%	4.8%	0.0%	25.3%	53.2%	21.5%	0.0%
	35	研修成果の共有状況	21%	58.3%	20.8%	0.0%	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%	26.7%	60.0%	13.3%	0.0%	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%	33.3%	61.9%	4.8%	0.0%	26.6%	58.2%	15.2%	0.0%
合計			39%	45.0%	15.8%	0.0%	36.7%	40.0%	23.3%	0.0%	36.0%	52.0%	12.0%	0.0%	31.4%	42.9%	25.7%	0.0%	46.7%	49.5%	3.8%	0.0%	39.5%	46.6%	13.9%	0.0%

平成30年度学校評価集計年度別比較表 長尾谷高等学校 全校

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	番号	評価項目	今年度 向上率	H29 A+B	H28 A+B	H27 A+B	H29 A	H29 B	H29 C+D	H28 A	H28 B	H28 C+D	備考
学校運営	1	学習指導要領の対応状況	▲ 1.2	97.5%	98.7%	98.7%	73.4%	24.1%	2.5%	68.0%	30.7%	1.3%	
	2	教育計画について	▲ 1.1	97.5%	98.6%	97.4%	77.2%	20.3%	2.5%	77.3%	21.3%	1.3%	
	3	教員・教科間連携状況	0.0	98.7%	98.7%	98.7%	55.7%	43.0%	1.3%	68.0%	30.7%	1.3%	
	4	教員と事務職員の連携状況	▲ 1.1	94.9%	96.0%	97.4%	58.2%	36.7%	5.1%	61.3%	34.7%	4.0%	
	5	会議の有効性	▲ 3.6	92.4%	96.0%	94.7%	54.4%	38.0%	7.6%	54.7%	41.3%	4.0%	
	6	ホームページの活用状況	▲ 3.8	96.2%	100.0%	96.1%	69.6%	26.6%	3.8%	56.0%	44.0%	0.0%	
	7	学校見学、説明会実施状況	▲ 1.3	98.7%	100.0%	98.7%	83.5%	15.2%	1.3%	82.7%	17.3%	0.0%	
	8	役割分担について	0.4	91.1%	90.7%	89.5%	46.8%	44.3%	8.9%	50.7%	40.0%	9.3%	
	9	危機管理対応状況	6.9	94.9%	88.0%	88.2%	45.6%	49.4%	5.1%	41.3%	46.7%	12.0%	
	10	地域交流について	▲ 8.5	83.5%	92.0%	81.6%	26.6%	57.0%	16.5%	25.3%	66.7%	8.0%	
		平均値	▲ 1.3	94.6%	95.9%	94.1%	59.1%	35.4%	5.4%	58.5%	37.3%	4.1%	
教育内容・教育の課題	11	情報能力育成	▲ 6.9	78.5%	85.4%	81.6%	20.3%	58.2%	21.5%	22.7%	62.7%	14.7%	
	12	情報モラル指導	▲ 0.5	83.5%	84.0%	85.5%	27.8%	55.7%	16.5%	32.0%	52.0%	16.0%	
	13	研究体制	▲ 0.7	87.3%	88.0%	81.6%	29.1%	58.2%	12.7%	33.3%	54.7%	12.0%	
	14	教育体制及び重点目標-1	▲ 2.3	93.7%	96.0%	94.7%	44.3%	49.4%	6.3%	40.0%	56.0%	4.0%	
	15	教育体制及び重点目標-2	▲ 3.6	93.7%	97.3%	96.1%	51.9%	41.8%	6.3%	52.0%	45.3%	2.7%	
	16	教育体制及び重点目標-3	▲ 7.4	87.3%	94.7%	90.8%	34.2%	53.2%	12.7%	30.7%	64.0%	5.3%	
	17	教育体制及び重点目標-4	0.3	93.7%	93.4%	97.4%	53.2%	40.5%	6.3%	54.7%	38.7%	6.7%	
	18	環境問題意識向上	▲ 4.5	83.5%	88.0%	85.5%	24.1%	59.5%	16.5%	26.7%	61.3%	12.0%	
	19	実践的態度の育成	▲ 2.8	78.5%	81.3%	78.9%	24.1%	54.4%	21.5%	21.3%	60.0%	18.7%	
	20	読書推進	▲ 10.0	63.3%	73.3%	65.8%	13.9%	49.4%	36.7%	8.0%	65.3%	26.7%	
	21	部活動	▲ 7.0	82.3%	89.3%	88.2%	43.0%	39.2%	17.7%	33.3%	56.0%	10.7%	
	22	ボランティア	▲ 2.8	53.2%	56.0%	56.6%	6.3%	46.8%	46.8%	4.0%	52.0%	44.0%	
	23	学校行事	▲ 1.3	98.7%	100.0%	100.0%	79.7%	19.0%	1.3%	82.7%	17.3%	0.0%	
	24	スポーツ・芸術文化	▲ 2.2	91.1%	93.3%	92.1%	54.4%	36.7%	8.9%	45.3%	48.0%	6.7%	
		平均値	▲ 3.6	83.5%	87.1%	85.3%	36.2%	47.3%	16.5%	34.8%	52.4%	12.9%	
生徒指導・支援	25	指導方針の一貫性	2.7	100.0%	97.3%	100.0%	77.2%	22.8%	0.0%	80.0%	17.3%	2.7%	
	26	生活指導について	1.5	97.5%	96.0%	100.0%	69.6%	27.8%	2.5%	69.3%	26.7%	4.0%	
	27	家庭との連携状況	1.3	100.0%	98.7%	98.7%	68.4%	31.6%	0.0%	57.3%	41.3%	1.3%	
	28	学習指導について	0.0	98.7%	98.7%	100.0%	58.2%	40.5%	1.3%	54.7%	44.0%	1.3%	
	29	カウンセリング体制	▲ 4.0	74.7%	78.7%	76.3%	20.3%	54.4%	25.3%	18.7%	60.0%	21.3%	
	30	進路指導について	▲ 1.1	97.5%	98.6%	97.4%	60.8%	36.7%	2.5%	49.3%	49.3%	1.3%	
		平均値	0.0	94.7%	94.7%	95.4%	59.1%	35.7%	5.3%	54.9%	39.8%	5.3%	
教員研修・資質向上	31	教員の資質向上について	1.5	97.5%	96.0%	97.4%	55.7%	41.8%	2.5%	45.3%	50.7%	4.0%	
	32	校内研修	▲ 9.9	83.5%	93.4%	89.5%	34.2%	49.4%	16.5%	42.7%	50.7%	6.7%	
	33	初任者のサポート状況	▲ 5.9	86.1%	92.0%	94.7%	55.7%	30.4%	13.9%	52.0%	40.0%	8.0%	
	34	校外研修	▲ 4.2	78.5%	82.7%	82.9%	25.3%	53.2%	21.5%	20.0%	62.7%	17.3%	
	35	研修成果の共有状況	▲ 3.2	84.8%	88.0%	85.5%	26.6%	58.2%	15.2%	28.0%	60.0%	12.0%	
		平均値	▲ 4.3	86.1%	90.4%	90.0%	39.5%	46.6%	13.9%	37.6%	52.8%	9.6%	
全体平均値			▲ 1.3	88.9%	90.2%	87.2%	47.1%	41.8%	11.1%	45.4%	46.0%	8.6%	

Ⅲ 学校関係者評価 概要

(名称) 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会

(目的) 1 長尾谷高等学校の教育活動の一層の向上に向け、学校と連携しながら取り組む。

2 学校関係者評価を実施し、学校の教育活動を支援する。

3 校長の求めに応じ、学校の運営に関し意見を述べる。

(活動) 1 委員の任期は4月から翌年3月までの1年とする。

2 委員の再任は妨げない。

3 会議は10月、及び、3月に開催する。会議を開催できない場合は意見・感想等を聴取する。

(事務局) 事務局を長尾谷高等学校枚方本校に置く。

(構成) 平成31年度(令和元年度)委員 (敬称略)

柴原 信彦(大阪市立東淀工業高等学校長)

飯尾 吉司(大阪市立南高等学校長)

松本 隆正(東洋学園高等専修学校長)

松永 恒志(近畿情報高等専修学校参与)

IV「平成31年度（令和元年度）長尾谷高等学校学校関係者評価委員会」の意見

1 「学校運営」評価

- ・教育課程、教職員連携、情報公開において95%以上の肯定的評価を維持していることは、教員間の共通理解のもとで日頃の教育活動が着実に行われていることがうかがえる。
- ・開かれた学校づくりの項目が、やや低いことが気になる。地域と一体感を持った行事やボランティア活動などを、さらに進める必要がある。
- ・学校運営に関する事項それぞれ肯定的評価が高水準で、安定した学校運営だということが伺えます。学校見学会・説明会への積極的取組など素晴らしいと思います。
- ・充実した会議を通して、長尾谷、各校の意思統一がなされている。教員同士の連携ができており、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。

2 「教育内容・教育の課題」評価

- ・多様な生徒に対し、国際理解教育・人権教育を推進するとともに、スポーツ・芸術活動も積極的に取り入れ、学校行事が盛んである。これからも生徒・保護者のニーズをしっかりとつかみ、教育内容のさらなる充実を期待する。
- ・情報モラル教育や、環境意識の向上などの課題について、今後も取り組む必要がある。
- ・思考力・判断力・表現力を培う指導の肯定的評価が増加しており、取り組みの成果が表れている。今日的課題である情報能力育成や情報モラル教育についても更なる強化をお願いします。
- ・学校行事を積極的に行い、思考力、判断力、表現力を培う指導が行われている。また多様な生徒が入学してくる中、人権研修を行い、教職員の意識向上を丁寧に行っている様子が、うかがわれる。

3 「生徒指導・支援」評価

- ・肯定的な評価が維持されており、家庭との連携を深めながら生徒一人一人に寄り添った教育がなされていると思われる。
- ・生徒指導関係の肯定的評価は高水準であり、支援に関する項目の評価をさらに上げる取り組みにより、多様な生徒が安心して学習を深めることのできる環境が確立されると思います。
- ・入学時には、言動に不安があった生徒も、教員の適切な指導で、自信を持って卒業していく様子が見られる。
- ・多様な事情を持つ生徒が前向きに学習できる場として、家庭との連携を深めながら、生徒一人ひとりに寄り添った指導がなされている。

4 「教員研修・資質向上」評価

- ・教員の資質向上に向けて、効果的な校内研修がなされている。分校同士の連携と情報共有を大切にし、人権教育やカウンセリングマインドに関する研修など、継続して取り組んでいただきたい。
- ・研究授業による教員相互の授業評価など、資質向上に向けて取り組まれている。研修成果の分校間の共有の工夫も進めていただきたい。
- ・教員間の連携が、よい評価になっている。研修についても積極的に行われ、これからも教員の資質向上の成果が評価されていくだろう。
- ・通信制高校になじみのない新任者に対しても支援がなされている。人権教育やカウンセリングマインドに関する研修を一層充実させていってほしい。

5 「総括」評価

- ・経年変化や他の通信制高校との比較などを自己評価に取り入れ、課題の発見やその対策を検討していることは、評価できる。これからも全教職員が共通理解のもと、認可校として充実した教育を期待したい。
- ・学校評価アンケートの分析も客観的になされており、次年度の学校運営にしっかり反映することのできる総括だと思います。
- ・様々な、課題を持った生徒が、入学してくる中、生徒に寄り添い、丁寧な指導を行っている。
- ・長尾谷5校が、別々に離れていても、一貫した指導方針により、組織的な対応ができる学校として、信頼を得ていると感じる。

6 その他、今後の学校運営についてのご意見

- ・多様な課題を抱える生徒たちにとって、通信制高校の果たす役割は、ますます幅広くなっている。今後も魅力ある学校づくりに邁進していただきたい。
- ・通信制高校の強みを発揮する学校運営をされることを期待しています。
- ・自学自習の精神を礎に更に発展されることを期待しています。
- ・長尾谷高校の特化した教育が、地域の信頼を得て、いっそう発展していくことを期待します。
- ・これからも、生徒1人ひとりの適性に応じた教育活動を展開され、より地域に密着した地域と共にある学校づくりに期待します。